

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2014年5月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第554号

このところ、日本のキリスト教界全体の停滞について耳にすることが多い。教派を越えて「どこの教会も礼拝出席者が減少し沈滞している」「信徒が高齢化して、教会に活気がなくなつた」「青年が教会に来なくなつている」等々の声が聞こえてくる。教会以外のキリスト教諸団体も、懸命に頑張っているものの、その例外ではないようだ。例えばキリストチャン・アカデミー関連活動センターの近年の活動を例にとると、優れた講師を招き充実した内容の講演会を企画しても、容易に多数の参加者を得られない。宣伝方法が足りない、広報活動に力を入れるべきだと反省しきりである。さらに、キリスト教書籍の販売実績が減少しているとか、キリスト教主義学校の苦闘も聞こえてくる。こうなると、当然のように、教会はもともと本来の伝道活動を振起しなければならぬとか、むしろ伝道にこそ専念すべきだという声が大きくなつてくる。

私の属する教区でも、先日、伝道協議会なるものが開かれ、某神学大学の先生が、と

もかく伝道に力を傾注すべきだと力説した。それはそれで大変結構なことなのだが、その際になつたことがある。その講師は「ミシオ・デイの神学」が、一時は流行つたけれども、それでは伝道は出来ない、何より信仰告白と教憲の厳守が大切だと強調した。つまり教会の社会的責任を云々するよりも、受洗者を増やす伝道にこそ専心すべきだという主張である。それを聞いていて、ある既視感のようなものを抱いた。私は日本キリスト教史を自分のささやかな勉強の領域としているが、たかだか一五〇年のこの国のプロテスタント・キリスト教の歴史において、同じような主張が何度か繰り返されて来たからである。古

今、キリスト教界に求められていること



関東活動センター運営委員長

戒能 信生

くは明治二〇年代の半ば、それまで倍々ゲームで伸びていた教勢が、明治憲法の発布、国会の開設、教育勅語の制定等と明治維新体制が確立するにつれ逆風にさらされるようになる。明治二十五年頃から多くの教会で礼拝出席者が激

減し、受洗者も減つて来る。すると、もつと伝道に力を入れるべきと、「二十世紀大挙伝道」が計画される。それまで何かと対峙的であつた明治維新政府と歩調を合わせての教会の歩みが始まる。国家や体制と協調的な教会の在りようが求められて行くようになるのである(明治四十五年、三教会同)。

もう一度は、なんと十五年

戦争の戦時下である。敵性宗教であるキリスト教は、やはりこの時期、逆風に見舞われて教勢が停滞する。キリスト教関係団体の運営も困難になる。すると「紀元二千六百年記念伝道」(昭和十五年)といった一大伝道イベントが計画されていくのである。このような体制に歩調を合わせた教会の帰結がどのように悲惨たるものであつたかは、既に歴史が明らかにしている。

そう言えば、現在の政権になつて、秘密保護法の制定、武器輸出三原則の撤廃、集団的自衛権の解釈変更、憲法改正への動き等が矢継ぎ早に打ち出されている。こういう時期に拍子を合わせるかのように、教会の側が政治問題や社会問題に手を出すのは控えよう、ただ伝道にこそ専念すべきだと言いつつのである。

キリストチャン・アカデミーの使命は、教会の枠を超え、キリスト教の境界をも取り払つて、出会いの場を提供し、話し合いの機会を創り出すことにある。その意味では、私たちの本来の使命が一層求められていると言えるだろう。

(日本基督教団東駒形教会牧師)

関東活動センター

●2013年度「神学生交流プログラム」第5回

「今、改めて十字架の神学を考える」

校長・青山学院大学名誉教授、日本基督教団神奈川
教区巡回教師

関田 寛雄さん

講師・西南学院大学名誉教授、日本バプテスマ連盟平
尾バプテスマ教会協力牧師、日本新約学会会長

青野 太潮さん

2014年3月27日(木)〜29日(土)

東京 黙想の家

小雨模様の中、東京・練馬にあるイエズス会霊性センター「東京黙想の家」へ向かった。出会いへの期待と不安に心震わせているのは、おそらく参加者もスタッフも同じ。五回を重ねてきたこの交流プログラムも毎年異なる個性があつて、それは始まってみなければわからない。異なる教派、神学校に属する一人一人。でも集うのは、そこがちやう

ど「祈りの家」であるように、祈りの心によつてハーモニーを奏でようとする人たちだろ

う。そうして、3月27日(木)

〜29日(土)、7神学校(関西学院大学神学部、聖公会神学院、西南学院大学神学部、同志社大学神学部、日本聖書神学校、日本ルーテル神学校、農村伝道神学校)から13名の神学生が参集し、総勢20名で2泊3日の豊かな交流の時を与えられた。

校長は第1回、第3回に続いて関田寛雄先生が担われ、開会礼拝、閉会礼拝をはじめ、牧会者としての言葉と存在を示してくださった。

西南学院大学神学部で新約学を教えてこられた青野太潮



先生(現・西南学院大学名誉教授、日本バプテスマ連盟平尾バプテスマ教会協力牧師、日本新約学会会長)が講師を引き受けてくださり、二度の主題講演を伺った。

「対話を通して、異なる立場の相互理解を進める」とのクリスチャンアカデミーの基本姿勢について戒能信生運営委員長の挨拶と説明の後、自己紹介と役割分担。自分の意見を積極的に語っていく人、人見知りだけれど誠実な語り

が周りを包んでいく人、リーダーシップにもいろいろあることを体感した。

青野先生の初回の講演は、『十字架の神学』の前提としてのイエスの福音をどうとらえるか」と題され、青野先生

ご自身の個人史に触れつつ聖書を読む・解釈するという行為について語られ、イエスの福音の中心には「神の無条件のゆるし」があること、福音の中核は「すでにそうであるものになる」ということだと、福音書を通じて示された。

二度目の講演は「イエスの十字架の意味―現代の私たちに問いかけるもの―」と題され、イエスの「死」と「十字架」の区別、贖罪論だけでは信仰は個人化し、この世界の不条理の問題は解決できないであろうとの指摘まで、「十字架の神学」の凝縮された内容を、先生の聖書に向き合う情熱に圧倒されながら何う幸いを得た。

初日も二日目もミーティングは、楽しくリクレーションを通じて互いが知り合う機会に：という予想に反して、「自分にとって十字架とは」という問いから、信仰の歩みの振り返り、捨ててきたものや他者の痛みとの出会い等々、青野先生の講演に大いに触発されて、いきなり中核の話題へ。

グループでのディスカッションから全体での分かち合いまで、それぞれの立ち位置で言

葉が交わされ、重ねあわされる経験を共有した。

晩祷では、聖公会の紡がれ練られてきた祈りの言葉を共に唱和し、次の夕は座禅による呼吸法と黙想を行なった。「言葉の洪水の中にいて、言葉から離れる時間も必要でしよう？」と言われて、沈黙に身を委ねる解放感を味わう。マリア聖堂は沈黙をも包み込んでくれる。それぞれの担当者は属する教派や各人の個性を活かして、豊かにプログラムを彩っておられた。

フィールドワークで訪れたのは、会場の隣りにあるカトリック神学院。神学院の中を丁寧に案内していただき、卒業した神学生たちが残していったという本やDVDをいただいで帰る参加者もあつた。続いて日本基督教団吉祥寺教会へ。吉岡光人牧師が教会の歴史や礼拝の様子を伝えてくださった。

この時にも、宣教を担っていく人が起こされていく奇跡を目の当たりにして、励まされている。すべてのプログラムにじっくり寄り添ってくださった関田先生、青野先生に心からの感謝をささげます。



昨年10月30日〜11月8日に韓国釜山で、世界教会協議会(WCC)の第10回総会が開催された。これを受けて、総会の報告と日本の教会のこれからについて考える集会が、いくつかの賛同する団体の共催により、関西セミナーハウスで開かれた。関西

「第10回WCC総会と日本の教会」

●共催プログラム

2014年2月17日(月)〜18日(火)

そして、このプログラムのために指定献金をささげ、祈って支えてくださったすべての

皆様、ありがとうございます
(増田 琴)

関西セミナーハウス活動センター

を中心に東北、関東などから56名が参加した。

1日目は、朴栄子氏(在日大韓基督教会)の説教による開会礼拝に続き、西原廉太氏(立教大学副総長・WCC中央委員)が「第10回WCC総会と日本の教会―日本のエキュメニカル運動の展望」をテーマに基調講演を行った。

2日目午前は、神田健次氏(関西学院大学神学部)の司会でシンポジウムが行われた。パネラーとして木谷佳輔氏(同志社大学神学部)、村瀬義史氏(関西学院大学総合政策学部)、川上直哉氏(東北ヘルプ・日本基督教団)、マイケル・シーゲル氏(南山大学社会学部)が報告した。

午後は、「日本のエキュメニカル運動の展望」をテーマに総合討論が行われ、関田寛雄氏(実践神学の会)の説教による開会礼拝で会を閉じた。

会の最後に、この集會を機

●2013年度 修学院フォーラム

「福祉―重荷を負う人と共に」第2回

「前例がなければつくればいい」

声楽家 青野 浩美さん

2014年2月22日(土)

青野浩美さんは、同志社女子大学で音楽を学び、専修科に進んで声楽家を目指していました。23歳の時、突然起き上がれないほどの病に冒され、気管切開の手術を余儀なくされました。声は出なくなる、歌うことなどとても無理という医師の判断でした。「歌いたい」という強い

意志で、これを克服されました。自分に合うカニューレ(気管に挿入する医療器具)を探るために病院の医師も説得することも含めて、「前例がなければつくればいい」と諦めませんでした。やってみないうちに無理と言うことを良しとし、ご両親の教えも大きかったそうです。その結果、今では、明るく美しい声を聞かせてくれます。日本の歌やアベ・マリアやイタリアやドイツの歌などが、親友の新真由美さんのピアノ伴奏で歌われ、参加者に大きな感動を与えました。



さらには、彼女のトークがその生き方を示し、関西人らしいユーモアを交えながらも、「病気になることが、自分にとっていいことではない」と言い切れる、すさまじい気力というか、人生哲学に触れ大きな励ましを受けました。苦しみ悲しみが喜びに変わることがあるというメッセージを受け取り、参加された人々は一様に満足された様子でした。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む会**

「イエスの世界の女性たち」

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：4 月 8 日～2015 年 2 月 10 日、第 2 火曜 18:30～20:00 (全 10 回)

会場：早稲田奉仕園スコットホール 2 階 222 号室

参加費：1,200 円/学生 500 円

共催：早稲田奉仕園

■**今日的課題プログラム I**

『「自死」に遭遇した人への慰めとは』

講師：賀来周一さん (キリスト教カウンセリングセンター相談室長)

日時：① 4 月 14 日、② 5 月 12 日、③ 6 月 9 日、④ 7 月 14 日、⑤ 8 月 4 日 いずれも月曜 14:00～16:00

会場：日本聖書神学校

定員：10 名 (先着順)

参加費：1 回 2,000 円

協賛：日本聖書神学校キリスト教研究所

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

西垣 豊之、食堂 (嘱託)、4 月 1 日付で着任しました。

野原 真一、食堂 (嘱託)、4 月 30 日付で退職しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
 代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館 6 F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

■**関東フォーラム宗教対話 I**

「古典で考える 20 世紀」

講師：武田利邦さん (農村伝道神学校講師)

日時：① 5 月 23 日、② 7 月 25 日、③ 10 月 24 日、④ 1 月 23 日
 いずれも金曜日 18:30～20:30

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500 円 (4 回参加の場合は 1500 円)

■**関東フォーラム宗教対話 II**

「牧師とともに絵本を読む」

講師：増田 琴さん (巣鴨ときわ教会牧師)、太田春夫さん (千代田教会牧師)、古賀博さん (早稲田教会牧師)

日時：① 6 月 27 日② 9 月 26 日③ 11 月 28 日④ 2 月 27 日
 いずれも金曜日 15:00～17:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500 円

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘**

第 17 回 能『松風』

日時：6 月 13 日 (金) 17:30～

第 18 回 能『班女』

日時：7 月 11 日 (金) 17:30～

解説・出演：林宗一郎さん (観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス

定員：50 名

能観賞料金：1,800 円/大学生 1,200 円 (ご宿泊者 1,000 円)

■**林宗一郎を囲んでの懇親会**

日時：上記能楽鑑賞後

会場：関西セミナーハウス 茶室清心庵

費用：1,500 円 (ご宿泊者 1,300 円)

■**月釜 清心会**

日時：6 月 15 日 (日)・7 月 13 日 (日)
 9:00～15:00 受付
 (1、8 月を除く年 10 回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**開発教育セミナー**

2014 年度第 1 回「開発教育入門セミナー Think Globally, Act Locally ～世界の中の私～」(協力プログラム)

主催：(独)国際協力機構関西国際センター (JICA 関西)、(公財)京都市国際交流協会

会場：京都市国際交流会館

日時：2014 年 6 月 22 日 (日)

10:00～16:30

参加費：無料 (要申込み)

申込先：JICA 関西

■**2014 年度修学院フォーラム「いのち」**

第 1 回「コントロール幻想」と新・優生思想の時代」

講師：児玉 真美さん (著作家)

日時：2014 年 7 月 19 日 (土)
 13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,000 円/学生 500 円

賛助会費・寄付金報告

2014 年 3 月 1 日～2014 年 3 月 31 日
 (順不同・敬称略)

◆**財団本部**

寄付金

日本基督教団早稲田教会 25,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

立原 敬一 5,000

早稲田奉仕園 300,000

寄付金

日本基督教団番町教会 10,000

神学生交流プログラム募金

西南学院大学 50,000

日本聖書神学校学生自治会 3,000

日本基督教団早稲田教会 50,000

松本 敏之 5,000

市川 邦雄 10,000

中富 頌隆 5,000

藤野 冷子 5,000

島田 治夫 2,000

大橋 祐治 3,000

高德 芳忠 5,000

島田 恒 30,000

松原 千里 3,000

農村伝道神学校 30,000

関田 寛雄 30,000

戒能 信生 50,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

深須 邦生 5,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

長塩 滋子 5,000

佐野 千枝子 5,000

網野 俊賢 5,000

浦 晴子 5,000

田沼 大典 5,000

寄付金

坪野 えり子 3,000

日本基督教団紫野教会 4,000

日本基督教団京都教会 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。